

奄美大島（南部）近海で釣れる魚たち

鹿児島県立古仁屋高等学校 竹山 英輔

1 はじめに

古仁屋高校は奄美大島南部にある瀬戸内町の古仁屋という地域に存在する。北部と違い、海岸線はリアス式海岸が多く、陸地から20～30m離れるだけで、水深も50m以上深くなるため、鹿児島～沖縄航路のフェリーも寄港する。古仁屋の街の目の前には、北西から南東に抜けた大島海峡があり、潮通しがよく、海峡の中心部ではクロマグロやカンパチ・真鯛・クルマエビなどの養殖が盛んである。

私自身が、2012年に赴任してから現在に至るまでの7年間で、奄美大島（南部）近海で釣ることができた魚について月ごとに総括してみた。

2 月ごとによる釣魚の考察

(1) 1月・2月

強い冬型の気圧配置になることが多く、北西の季節風が吹くため、外海へ出られることは3、4日に1度あるかないかくらいである。潮の流れ方は素直なことが多く、餌釣りだけでなく、ジギングも非常にしやすい時期となる。1月になると鯛の乗っ込みが始まり、オキアミのコマセ釣りで数釣りが楽しめる。この際、外道として、6kgクラスのコロダイも釣れる（図1）。



図1

(2) 3月

春一番が吹けば、いよいよ本格的な釣りシーズンの開幕である。冬型の気圧配置が弱まり、堤防にも春イカがよってき始める。潮も素直であることが多いため、ジギングが非常にしやすい。図2は300gのジグで釣り上げたヒレナガカンパチ14kgである。

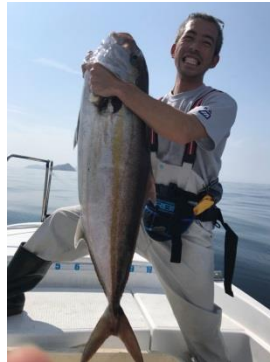


図2



図3

(3) 4月

風の強さも徐々に弱くなり、春イカの本格的なシーズンとなる。釣れる年と釣れない年があるのだが、堤防にキビナゴが接岸している年は、数・型ともに期待できる（図4）。4月後半になると、カツオの接岸も始まり、堤防や沖釣りで数が見込める（図5）。



図4



図5

(4) 5月・6月

5月下旬の梅雨入りをするまでは、1年の中で最も天候が安定し、釣りだけでなく、観光にも適したシーズンとなる。

春イカのシーズンも終わりに近づき、数釣りは見込めないが、かかれば型の大きなサイズを釣ることができる。図6は堤防から釣りあげた2.7kgのアオリイカである。



図6

また、沖漁礁では良型のキハダマグロが釣れ始める。図7は職員で行った際のマグロ釣りツアーでの釣果の様子である。トップウォーターやジギング、エビングなどでシイラやカツオも釣ることができる。



図7



図8

図8は地元の漁師さんの船に同乗させてもらった際に、釣らせていただいたキハダマグロの自己記録となる27kgである。

(5) 7月・8月

台風のうねりが入り、外海へ出られないことがある。また、日差しが強くなるため、10時以降は海面の上昇気流が起こるせいか、上潮と底潮の流れが相達し、強烈な2枚潮となり、ジギングが成立しづらくなる。



図9



図10

海水温も上がるため、魚の身質がやわらかくなり、内臓周りに寄生虫が発生しやすくなる。

2枚潮の関係で深場の釣りはやりづらいのだが、その分、浅場でのロックフィッシュゲームは楽しむことができる(図9)。また、8月後半になると、キツネフエフキ(図10)やハージン(スジアラ)(図11)の良型が釣れ始める。

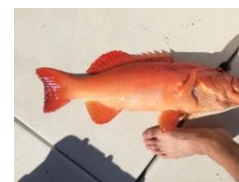


図11

(6) 9月

日中の暑さはまだ残っているが、月後半になるにつれ、少しずつ2枚潮も和らいでいき、釣りがしやすい状況になっていく。また、2~3kgの手頃なサイズのカンパチが釣れるようになり、潮さえあえば、数釣りを楽しむことができる(図12・13)。



図12



図13

(7) 10月

ムロアジの回遊が始まり、泳がせ釣りで大物を狙える時期となる。台風さえ来なければ、海水浴などのマリンスポーツにも適しており、5月と並んで観光するにはベストなシーズンとなる。



図14



図15

泳がせ釣りでは、横の釣りであるぶっこみにて、ウブス（スマガツオ）が狙え、縦の釣りでは、ハタ系の魚やカンパチなど根についた底物を狙うことができる（図14・15・16）。

図17はハージン・ウブス・カンパチの3種盛をハージンの姿造りにて挑戦してみたときの写真である。



図16



図17

(8) 11月

台風の襲来もひと段落して、天気も安定した日が多くなる時期である。水温が少しずつ下がってくるのに比例するかのように、魚の身質も締まってきたはじめ、刺身の旨みが増してくる時期である。昼と夜の潮の入れ替わりの時期でもあり、潮があれば、ジギング



図18

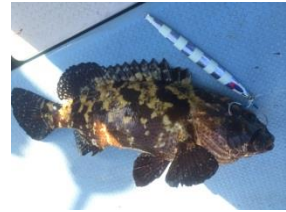


図19

にて様々な魚を釣ることができる。図18は中層で喰ってきたウブス、図19は今年、国際自然保護連合（IUCN）によって、絶滅危惧種に新たに指定されたマダラハタ。この魚はレッドリストに載る前の2014年に釣ったものであり、当時、危惧種と知らなかったため、家に持って帰って食したのだが、とろけるような絶品の味であった。

(9) 12月

秋雨前線もなくなり、春先ではないのだが三寒四温の日々が続く。アオリイカの接岸も始まり、コブシメ（南方のコウイカ）も釣れるようになる。図20は仕事の帰りに堤防から釣った5kgのコブシメとその骨（図21）である。

沖釣りでは、イソマグロやアオチビキの良型が釣れるようになる。図22は沖釣りのジギングにて釣った7kgのアオチビキである。



図20



図21

3 最後に

まだまだ紹介したい魚や、それを釣ったときの状況について記したいことはたくさんあるのだが、書き始めたらいくらでも書けそうなので、今回は、その一部についてまとめてみた。機会があれば、釣魚の料理別や釣り方の手法ごとにまとめてみたい。

奄美大島は、鹿児島県ではあるが、鹿児島本土に比べると海水温も高く、黒潮の本流にも近いため、近海の魚も多種多様にわたっている。私自身、その魅力にすっかり取りつかれてしまった一人なのだが、本稿をご覧になった方々で、是非、奄美大島（とりわけ南部の瀬戸内町）を訪れてみたいと思う人が一人でも増えていただければ、著者にとってこれ以上の幸せはない。



図22